

前立腺がん に対する ロボット支援



腹腔鏡下前立腺全摘除術

市立大津市民病院では、内視鏡手術支援ロボット“da Vinci”による、ぶれのない、拡大視野下の精密な手技で、約 260 例の前立腺全摘除術を行いました。

1990 年以降、泌尿器科手術の多くが腹壁に数個の“あな（孔，ポート）”を開けて細径の内視鏡と手術器具を“あな”から入れて行う腹腔鏡下手術に置き換わってきました。1999 年に米国で臨床導入された腹腔鏡下手術支援ロボット“da Vinci サージカルシステム”は日本においても現在までに約 390 施設に導入されています。

大津市民病院では 2014 年に“da Vinci サージカルシステム”を導入し、泌尿器科では現在までに約 150 例のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を行いました。“da Vinci サージカルシステム”の



ベッドサイドロボット

メリットである、ぶれのない、拡大視野下の精密な手技により、術中出血量や手術合併症が少なくなり、制がん性を損なうことなく、術後の排尿機能や男性機能の回復が大いに改善されました。

“da Vinci サージカルシステム”の治療成績

“da Vinci サージカルシステム”による約 260 例のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術は

- ①術中平均出血量:215ml
(従来の開腹手術の 3 分の 1 以下、非ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の約 2 分の 1)
- ②中等度以上の追加医療介入を必要とした手術合併症(輸血含む):なし
- ③これまでの症例の術後尿失禁については 3 ヶ月目の短期成績 15%程度と他施設と比較しても良好な成績で常に尿禁制の早期回復を意識した術式工夫を行っています。

術中のモニター画像



遠隔術者





たちにお任せください



●市立大津市民病院泌尿器科のご紹介●

常勤医師:5名

“da Vinci サージカルシステム“

手術資格保有医師:4名

手術指導者資格保有医師:1名

(2020年8月現在)

おおよその入院期間と費用について

手術名称	入院期間	点数	3割負担の方の概算費用 (限度額適用なしの場合)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる)	14~18日間程度	16~19万点程度	48~57万円程度

概算は、限度額を適応していない金額です。

※70歳未満の方が限度額認定証をご提示いただくと、

1ヶ月ごとの自己負担額が、所得区分:ウ(年収約370万~770万円)の方で10万円前後です。

※70歳以上の方は高齢者受給者証をご提示いただくと、

1ヶ月ごとの自己負担額が、所得区分:一般の方で57,600円程度です。

限度額は所得により異なります。食事代や差額ベッド代は限度額認定証の対象外です。

2019年度のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術実績

・年間症例数:47件

・平均入院日数:約13.5日

市立大津市民病院 泌尿器科